

6/19 (木) 町立小中学校6校全校が受賞 学校情報化優良校再認定証授与式

学校情報化優良校再認定証授与式が、茨城町立大戸小学校(高安洋子校長)を会場に開催されました。

学校情報化優良校認定とは、日本教育工学協会(JAET「後援:文部科学省」)が教育の情報化の推進を支援するため、総合的に情報化を進めた学校を客観的に評価し、認定する制度です。町立小中学校6校は、令和5年1月に学校情報化優良校の認定を受けていますが、その後も、情報化の推進体制、教科指導におけるICT活用等の情報教育を積極的に取り組んだ結果、令和7年4月に再認定されました。

町内すべての学校が再認定されたことを受けて開催された授与式では、毛利靖氏(日本教育工学協会(JAET)理事兼茨城大学教育学部教授・附属学校園総括長)を来賓に迎え、授与式およびICT機器を活用した授業を関係者に公開しました。

再認定期間 令和7年4月1日～令和10年3月31日



6/23 (月) 「KING&QUEENコンテスト2025」ゴールドマイスター賞受賞 豊田大介さん 表敬訪問



JA水戸茨城町メロン部会に所属する豊田大介さん(宮ヶ崎)が、5月28日(水)に開催された、いばらきメロン品評会「KING&QUEENコンテスト2025」のイバラキング部門のゴールドマイスター賞(最優秀賞)受賞報告に小林町長を表敬訪問しました。

このコンテストは県オリジナル品種メロン「イバラキング」及び県産「赤肉メロン」について、外観、食味ともに優れた逸品を選抜する県主催のコンテストで、今年で3回目の開催となります。

受賞報告で豊田さんは「徹底した土づくり、温度管理、種づくりにこだわっている。今後はより秀品率の高いメロンの生産に取り組むとともに、赤肉メロンでもコンテストに挑戦し、受賞を目指したい。」と、意気込みを語りました。

小林町長からは「今回の受賞は茨城町のメロンのブランド力の向上に大いに貢献した。引き続き茨城町のメロンの知名度アップに尽力していただきたい。」と、激励の言葉が送られました。

6/3 (火) 「七絃の会」 茨城町の風習と昔ばなし 「かぐらくぼ」発行

昔ばなし「七絃の会」(藤枝安子代表)は、茨城町に残る風習と昔ばなしを集めた冊子「かぐらくぼ」を発行し、そのPRのため小林宣夫町長を表敬訪問しました。

「七絃の会」は、茨城県の地域に埋もれている昔話や伝説を共通語や土地ことばに整え再話するなど、いずれは途絶えてしまうであろう民俗文化遺産を継承していく活動を長年続けています。

本冊子は、実際に各地区へ出向いて聞き取りをし、茨城町の風習と昔ばなしを1冊にまとめたもので、表紙も七絃の会の藤枝豊子さんが手掛けた懐かしくもかわいらしい図柄となっており、県内の図書館、町内の小中学校に教材として配布されています。七絃の会代表の藤枝さんは、「かぐらくぼ」を多くの方に読んでいただいて、風習・昔ばなしを後世に長く伝えていただけたらと話していました。

なお、「かぐらくぼ」という冊子名は、昔話のタイトルからとっています。獅子舞たちが狐に化かされ神楽を踊らされた場所が野曽と南栗崎の窪地でした。そこから、この辺りを「かぐらくぼ」と呼ぶようになり、この地名を後世まで残そうと冊子名に選んだそうです。



藤枝豊子さん 藤枝安子さん 青木いづみさん



6/24 (火) 株式会社 日野 まちづくりの一助とするための 寄附



(株)日野 空間情報部 小池部長

町の下水道関連の事業を請け負う株式会社日野(小笠原亜紀子代表取締役)より、10万円の寄附がありました。

小笠原代表より、「少しでも町の発展に貢献できればと思います。」と寄附に至った想いをいただきました。

町では、多大な心遣いに感謝し、貴重な財源として役立てていきます。

6/16 (月) 橋本畜産株式会社 学校給食へ「常陸牛 煌(きらめき)」 を寄贈



町立幼稚園、小中学校の子どもたちに、「茨城町で育てた“常陸牛 煌”を食べて、まっすぐに成長してほしい。」と、橋本畜産(株)(橋本武二代表取締役)から、常陸牛 煌60kgが寄贈されました。

寄贈された常陸牛 煌は、地産地消及び食や命に対する感謝の気持ちを持つことを目的に、6月16日の学校給食でカレーとして提供。青葉小学校6年生のクラスには、「いただきます!」のあいさつとともに、□いっぱいカレーを頬張る姿がありました。常陸牛カレーを食べた子どもたちからは、「楽しみにしていた。」や「柔らかくて甘く感じる。」など、喜びの声が多数聞かれました。